

令和7年度 飛鳥中学校の進路学習・進路状況について

本校ではキャリア教育（自分らしい生き方を実現するため）を重視し、地域の方や専門機関の方の講演会、職場体験学習などを行っています。働くということについて考え、自分の特長や将来への希望を自覚し、自分の進路を切り開いていってほしいと考えています。一方、中学校で義務教育は終わり、その後の進学のためには受験をしなければなりません。自分に合う進学先を選択していけるよう、本校では生徒が授業に集中できる環境をつくり、勉学に励めるようにしています。また各学年での段階的な進路学習を通して、自分の進路を生徒自ら決定できる力をつけてほしいと願っています。年度末に際し、今年度本校で行われた進路学習と進路の状況をお知らせします。

○各学年の取組

・第1学年

職業調べでは、自分の興味のある職業について調べ、イラストや図、色彩を工夫して新聞形式にまとめました。また、仕事についての講演会を通して、人生の価値観や様々な職業への適性について考えを深め、中学校卒業後の進路についても研究しました。校外学習では、都内巡り（フォトアドベンチャー）を行い、課題を解決するために班で協力して取り組みました。

・第2学年

職場体験学習と、その事前・事後学習では正しい職業観、責任感、社会人としてのマナーを学びました。また、体験で学んだことをまとめました。

進路学習では、中学校卒業後の多岐にわたる進路についての学習をふまえ、上級学校を調べました。また、いろいろな活動を通して自己を理解し、自分に合う進路について考えました。

・第3学年

修学旅行の事前学習では京都・奈良の寺社や歴史的建造物について文献やインターネットを利用して調べ、工夫してまとめました。また、班活動を通して計画や見学経路を主体的に決定し、協調性と計画に基づいた実践力の向上を目指しました。

進路学習では、上級学校調べレポートの作成を通して、関心のある学校について詳しく調べました。また、進路説明会等の情報に基づいて、主体的に卒業後の進路を選択しました。入試に向けての取組としては、自己PRカードの作成、面接練習（校長面接）等、自己を分析してまとめ、表現する活動を行いました。

○令和7年度 飛鳥中学校第3学年 進路に関することから（主なもの）

- ・三者面談（今年度は7月・11月・12月）
- ・進路説明会（6月・11月）
- ・進路希望調査（4回）

○令和7年度 入試日程（主なもの）

- ・入試相談（12月15日～）
- ・私立推薦入試（1月22日～）
- ・都立推薦入試（1月26、27日）
- ・私立一般入試（2月10日～）
- ・都立第一次・分割前期入試（2月21日）
- ・都立分割後期・第二次入試（全日制：3月10日、定時制：3月26日）
- ・都立第三次募集（3月26日）

○令和7年度入試で変更された点

- ・全日制課程における分割募集は、令和8年度入学者選抜においては廃止し、第一次募集で選抜することになりました。なお、定時制課程の高校（昼夜間定時制高校）では、多様な生徒の受検機会を確保する観点から、これまでどおり継続して分割募集が実施されます。
- ・通信制課程の入学者選抜は、令和7年度入学者選抜までは4月上旬に行ってききましたが、通信制課程を第一志望とする生徒が増加傾向であることを踏まえ、令和8年度入学者選抜においては、前期選抜と後期選抜の二回に分けて実施されました。前期選抜は、第一次募集と同じ時期に、後期選抜はこれまでと同様に4月上旬に実施されます。
- ・困難を抱える生徒の多様なニーズに応えることができるよう、学力検査の得点と調査書点の比率について7：3と10：0の両方の方法で算出しどちらか高い方を本人の得点として選抜する新たな選抜方法を、令和8年度入学者選抜より新たな受入環境充実校として改編する深沢高等学校で実施されました。
- ・在京外国人生徒等対象の選抜では、日本語により作文等を実施する場合は、全ての受検者に対してひらがなのルビを振った問題により実施することとし、ルビ付問題の配慮申請は必要としないことになりました。また、学力検査に基づく選抜等において、ルビ付問題の配慮申請をする際に提出する様式については、申請理由の記載欄が削除されました。
- ・定時制課程では、志願変更は行わないこととなりました。
- ・自己PRカードは、推薦選抜など面接を実施する学校に出願する場合のみ提出することとなりました。

○今年度の都立入試を振り返って

都立高校、私立高校ともにインターネットを利用した出願や発表、書類の郵送などは定着してきています。都立高校入試では推薦入試の応募倍率が2.19倍（前年度2.28倍）となり、前年度より減少しました。しかし、学校によっては高倍率となり、都立板橋で4.66倍、都立鷺宮で4.29倍、都立城東では3.70倍となりました。一方、都立一般入試では全日制全体の最終応募倍率は1.25倍（前年度1.29倍）となりました。また、都立第二次募集では52校で定員割れとなり、第三次募集が1,900人を越える規模で行われます。都立推薦入試では例年行われていた「集団討論」は、6校で実施されました。推薦入試では高倍率となりましたが、一般入試の倍率は減少傾向が続いています。これは私立高校へ進学先を決定する生徒の増加によるものと考えられます。

○令和7年度進路先内訳

進路先内訳 3/23現在

■国公立 □私立



○令和6年度、令和7年度卒業生の主な進路先（50音順）

< 都立 >		< 私立 >		
赤羽北桜	芝商業	飛鳥未来きずな	淑徳巣鴨	東洋大京北
飛鳥	新宿	飛鳥未来きぼう	順天	豊島学院
足立工科	新宿山吹	足立学園	潤徳女子	トライ式
足立新田	墨田川	岩倉	城北	羽田国際
井草	高島	上野学園	昭和鉄道	文化学園大学杉並
板橋	竹早	浦和学院	駿台学園	豊南
板橋有徳	田園調布	S	正則学園	保善
上野	豊島	北豊島	成立学園	北海道芸術
王子総合	戸山	錦城学園	専修大学附属	堀越
王子特別支援	農産	クラーク国際	瀧野川女子学園	瑞穂 MSC
大島海洋国際	晴海総合	慶応義塾	中央大学	武蔵野
小台橋	一橋	京華	中央大学杉並	明治学院
葛西南	日比谷	京華商業	千代田	目白研心
科学技術	文京	國學院	帝京	矢板中央
北園	向丘	駒込	貞静学園	立教新座
桐ヶ丘	六本木	桜丘	東亜学園	立志舎
江北		さくら国際	東京	ルネサンス
駒場		サレジアン国際	東京家政大学附属	早稲田実業
小山台		品川エトワール	東京電機大学	早稲田本庄
産業技術高専		品川学藝	東京文理学院	
城東		芝浦工業大学附属	東京農業大学第三	
忍岡		自由学園	東洋女子	